

「野生鳥獣との共存に向けた生息環境等整備」  
連絡会議 議事概要

日時：平成26年2月27日（木）13時15分～15時40分

場所：四国森林管理局 大会議室（高知市丸ノ内1-3-30）

注：以下ニホンジカをシカと表記する。

- 1 開会 佐賀技術普及課長
- 2 森林整備部長挨拶 鶴園森林整備部長
- 3 出席者紹介
- 4 議事 司会：佐賀技術普及課長
  - (1) 四国山地緑の回廊「剣山地区」にかかる関係機関等のシカ害対策等について
    - ① 四国森林管理局  
資料1に基づき山崎企画官から説明
    - ② 中国四国地方環境事務所  
資料2に基づき中村高松事務所課長補佐から説明
    - ③ 徳島県自然環境室  
資料3に基づき森本係長から説明
    - ④ 高知県鳥獣対策課  
資料4に基づき大野主任から説明
    - ⑤ 馬路村（産業建設課）  
資料5に基づき山崎課長から説明
    - ⑥ 「白髪山周辺のシカ被害と避難小屋南面の崩壊地の変化」  
どう守る三嶺・剣山系の森と水と土・シンポジウム（7）資料集に基づき依光委員から説明
    - ⑦ 「三嶺山域におけるササ草原の衰退が斜面崩壊に与える影響」  
パワーポイントにより石川慎吾委員から説明

## (2) 意見交換

：高知県の捕獲目標を3万頭とした根拠を教えてください。

：高知県鳥獣対策課

23年度に設定した目標頭数で、確たる科学的根拠とはいえないが、平成22年度に実施した密度調査の結果を勘案して年間10万頭生息していると仮定し、シカの年間増加率が2割程度であることを踏まえ、適正頭数に減少させるために捕獲目標は3万頭と設定したところ。なお、平成25年度の委託事業において、今まで実施してきた密度調査の結果と捕獲実績をもとに、より科学的な手法で推定生息頭数を算出することとしており、調査結果がまとまればお示しできる。

：これから、特に高知県で、人工林の伐採が早いスピードで進む状況にある中、全ての更新地で、シカ防護対策を実施して再造林を行えば問題ないが、高知県の伐採と更新の指針の中でも、全て再造林をするとはなっていない。天然更新によりシカに餌を供給するような場所が増えシカが増加する恐れもあり、そういう状況の変化をみながら捕獲目標頭数を変えていくことも大事だと考える。

こういう関係機関が集まる場において、状況の変化にどういう対応すれば良いかについて、大枠の共通認識を議論することが大事だと考える。

：高知県の検討会に携わっているが、毎年密度調査等から推定した生息頭数をコントロールするためには、早い段階から頭数を減らす必要があり捕獲目標頭数を3万頭としたところ。高知県の25年度の委託調査は、環境省が全国の生息頭数推定のために最近はじめた手法で、いままでの単年度のデータをそのまま使うのではなく、過去に遡って統計的処理により過去のデータの再評価を行うとともに現在のデータも見直すという、より科学的な手法で調査をしており、現時点の調査状況は、推定生息頭数等あまり差異はなく3万頭の捕獲目標頭数は妥当と考えている。

：3万頭捕獲すればシカが減少するのはわかったが、森林の植生の

変化をどう捉えるべきか教示頂きたい。

：三嶺等天然林のみならず、人工林地域も同様に被害を受けており、シカ被害対策を実施しない皆伐跡地が増えていくのは大変危険。そういう山をみればわかるが、短期間で森林の公益的機能を失った雑地となる。今後皆伐がふえれば、植林、天然更新にかかわらず山の状況を随時チェックして、必要な場合は公的資金を投入してでもシカの影響を排除して緑化をする必要がある。県においては、鳥獣対策部門任せでなく、林業部門と密接な連携をとって対策にあたられたい。

：猟友会が高齢化・減少する中、三嶺での連携捕獲のような新しい捕獲方式が必要となるが、この捕獲に協力している自衛隊が、銃猟を実施することはできないのか。

：四国森林管理局

法律上演習地以外は銃器を利用できないことから、情報収集等の役割を担って頂いている。

：今のシカ被害は緊急事態。環境者は今後 10 年でシカを半減させるというが、石鎚山系にもシカが拡がっている中、石鎚山系に係る多くの機関の内、どこがどのように対策を実施するのか。

：四国森林管理局

国もシカ被害は大きな問題として対策を検討しており、シカ対策の公共事業予算での実施や検討中の鳥獣保護法の改正等により、予算強化や鳥獣保護管理のプロ集団の育成等を進めており、四国においても、関係機関が色々な対策を組み合わせ捕獲の強化等を進めて参るのでご協力をお願いします。

：佐々連尾では既にシカの生息密度が高くなっており、瓶が森等西に生息域が拡大してきたら大変な事態となるので対策を願います。

：中国四国地方環境事務所

猟友会の高齢化に関しては、現在見直している鳥獣保護法等において、狩猟者を増やす対策と捕獲を専門に行う事業者認定制度の創設等に取り組んでいる。認定の具体的な要件はこれからの検討にな

るが、本制度を通じて、保護管理のプロ集団が増加し若い世代も参集してくることを期待している。

石鎚山系は、愛媛県の調査において、国指定鳥獣保護区の中にも食害等シカの痕跡が見られ、捕獲調査等を実施する段階と判断している。今後も愛媛県と連携をとって、周辺地域の捕獲の担い手との調整等準備を進めて参りたい。

：捕獲をする人が足りない中、今までのように狩猟者まかせではなく、鳥獣保護管理の専門家の集団も必要となっており、今の鳥獣管理は仕事だという認識で動かなければならない。捕獲者も技術者である必要があり大学でも教えるようになっているが、仕事として成り立つような仕組みにする必要がある。森林管理局や地方公共団体においては、国有林野等の管理者として、シカの生息及び被害状況等基本情報を把握し、その情報等を踏まえて、捕獲業務等は、専門の事業者による事業として発注して頂きたい。そうすれば鳥獣管理の技術者育成に繋がるし、公的機関としても、発注者として専門的知識を持つ人材の育成が必要となってくる。

：公的資金を投入し捕獲等一定の成果があがるころは、既に手遅れとなっている。猟師が追いかけてもほとんどシカを現認しない時期に対策をうつ必要があるが、予防的対策に税金を投入することは県民の理解を得ることが難しく、被害がでない対策がうてないのが現状。手遅れとなった三嶺等なぜ早く対応しなかったか後悔しており、早期の対策実施に向けた対応を進める必要がある。

：四国森林管理局

ヨーロッパでは、フォレスターがシカの生息状況をみて頭数調整の判断をし捕獲を実施している。日本も、将来、知見をもつフォレスターがたくさん育てば、時期を失しない効果的な対策がうてるかもしれないが、まだまだ時間がかかることから、林野庁では、調査にかかる予算強化や保護管理のプロを育てる方向で検討している。

なお、鳥獣対策も保護管理という考え方で専門家が実施する必要があるという方向に進んでいるが、人材の育成はこれからであり、

現時点の状況を踏まえつつ国有林が自らできる対策は実施する必要があると考えている。

：国有林は、森林官等職員が日常業務で把握できる情報を、経常的に報告・集積していけば、一定のシカ生息及び被害状況等についての情報が蓄積できるので対応をお願いします。

：四国森林管理局

現場からは、個別・不定期的な情報収集はしているが、汎用性のある簡単な情報収集・蓄積も検討して参りたい。

：登山の折等、シカ防護ネット柵の破損等を見かけたら勝手に補修しているが、三嶺等遠隔地にあるたくさんのネット柵の維持管理はどのようにしているのか。

：徳島県自然環境室

三嶺山頂を囲むネット柵は、崩壊や雪の被害により維持管理予算を相当使っており、特に今年の大雪による被害を心配しているところ。当方としては、登山者で、ネットを自主的に補修して頂く方が増えて頂ければありがたい。

：三嶺山頂を囲むネット柵を設置して4度目の冬となるが、今年の雪害は特にひどく、ポールが折れたり雪の重さでネット柵が倒れている。昨年は雪が少なく、ネット柵を下ろしているところにシカが侵入したので、今年は柵の場所を雪崩の少ない場所に換えネット柵をそのままにしたこともあり傷みが激しい。また、北斜面は例年傷みが少ないが今年は被害が大きい。3月半ばには、当会のメンバーで、南斜面のネット柵を修繕しようと考えている。

：高知中部森林管理署

三嶺に設置したネット柵は、みんなの会の皆さんにも修理をしていただいているが、署として定期的な点検はできていないのが実状。例えば、中東山に設置した周囲1400mのネット柵の点検にいった折も、1箇所（箇所）の修繕のみで4人で1日かかる等相当な労力がかかるが、できる限りネット柵を巡回して維持管理に努めたい。

：生息状況の情報収集、調査も必要だが、山へ行く機会が多い者の

シカの日撃情報等は結構多い。そういう情報を集めてデータ化することはできないか。例えば、公的機関のHPに一般からの情報収集ができる仕組みをあげていくようなことは考えていないのか。

：愛媛県では、シカに係る一般からの情報提供についてHPで呼びかけはしている。ただ、地域の方等HPを見ない方が多いことから、情報提供用のチラシを作り、市町村を通じ配布する、登山口におき登山者に記載頂く等に取り組んでいる。

：四国森林管理局

愛媛県の例もあることから、鳥獣対策関連の公的機関の連絡会でも検討して参りたい。

：ぜひ行政において、一般の方も参加できる情報収集の仕組みを作って頂きたい。

：中国四国地方環境事務所

生物多様性センターのHPの生き物ログの中に、自然保護の団体等が、調査データを登録できるとともに一般に公表もできるシステムがあるので、HPでご確認いただきたい。

5 閉会 森林整備部長